

S-1

齒科衛生普及會編纂

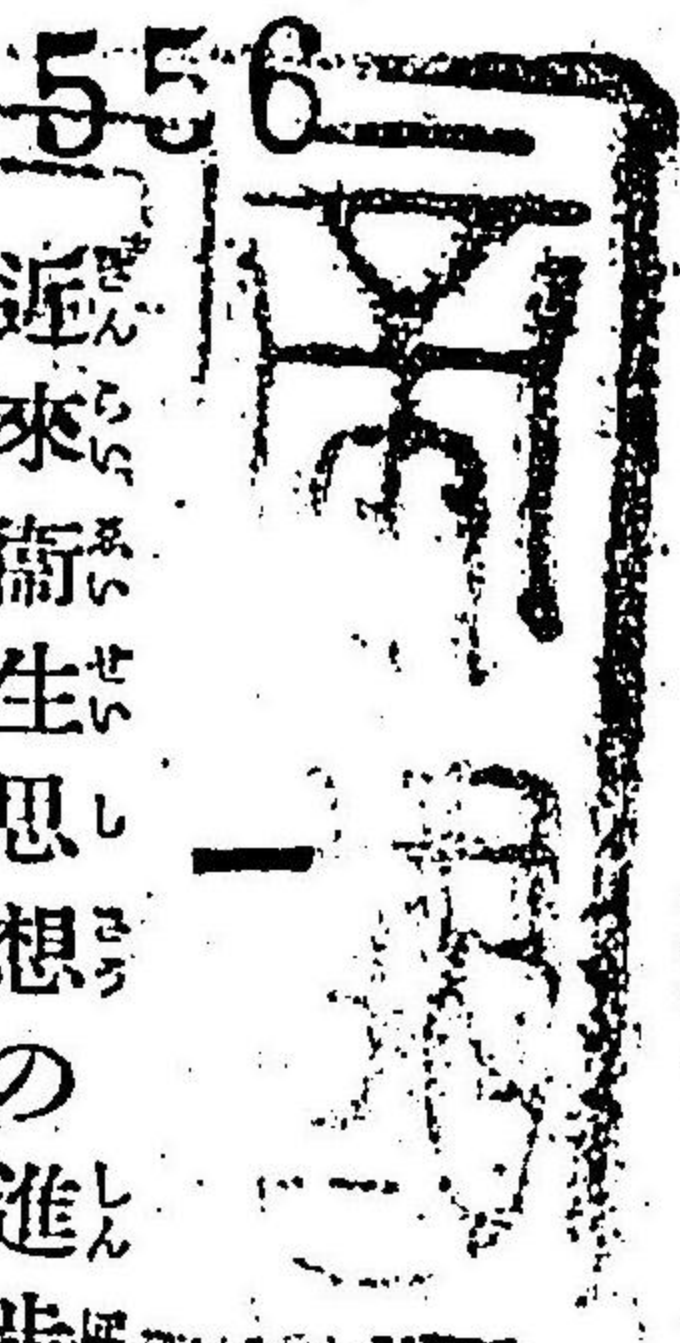
通俗
齒の養生法



齒の養生法

齒科衛生普及會編纂

45. 5. 10



1

近來衛生思想の進歩に伴って段々世間の人が齒の攝生に注意を拂ふ様な傾向を生じて來たのは誠に嬉しい次第です。未だ此方面の事は兎角等閑にされ勝てありません。

一體齒は第一に吾々が一日も缺く事の出來ぬ營養物即ち食物を噛み碎く職能を有つてゐるのであるがその食物を噛み碎くといふ齒の運動は同時に食物の消化に最も必要な唾液の分泌を促すのであります。此唾液の中に含有され

てゐるプチアリンといふものが食物と混和して初めて消化されるので普通世間の人々が漠然と考へてゐるやうに食物は胃液でのみ消化されるものではありません。詳しく言へば食物が唾液と混和して胃の腑に嚥下されると大凡三十分間といふものは胃液の分泌が殆んど中止されて其間に唾液中のプチアリンが非常な勢で澱粉質のものを消化し終ると初めて今度は胃液の消化作用となるのであります。斯様に食物の中には唾液に由て消化されるものと胃液に由て消化されるものと尙其外に腸内で消化されるものとプチアリンに依らねば消化されぬものが多量に含有され

て居るのであります。だから昔から言ふ通りよく噛んで食へといふ意味も必竟よく食物を粉碎しよく唾液を分泌せしめて食物に混じ消化を助けよといふに外ならぬのであります。其故もし歯が痛んだり泌みたりする時は自然よく咬合することが出来ませんから従つて唾液の分泌も少なく其儘嚥下される結果胃腸を害して種々の疾病を惹起することになります。即ち歯の強弱は胃腸を通じて直ちに身體の健康に影響を及ぼすのであります。

第二に齒は吾々が物を言ふ時音聲の調子を整へる機能を有つて居りますが此發音といふ事は腦の發育に非常の影

響を及ぼすもので或る心理學者の説に據ると就學兒童中前齒のない者は一般に優等の成績を擧げる事を得ない、それは發音が完全に出來ぬため印象を強めるに必要な復誦に困難を覺え延て記憶力を減退せしむるからだと言ふてあります、つまり齒の有無によつて其人の賢愚の差別に重大な關係を生ずるのであります。

第三に齒は吾々の容貌の美醜に關係する事最も大にして齒の大小有無により顔の相好の變るは勿論齒列の如何により頬が落ちたり腮がしゃやくつたりします、だから昔から有名な典型的美人の理想たる三十二相の中にも齒齊牙密齒牙白淨云々とあつて齒が完全に配列のいゝのを容貌

第一の條件としてあります、然し如何に齒が完全に列びがよくとも薄汚くよごれてゐては何にもなりません昔から美人を形容して明眸皓齒と言ふて白い齒は容貌の中心としてあります、全く誰でも嫣然と笑ふ時チラと朱唇を洩れる眞珠のやうな齒は愛嬌があつて他人に快感を與へますが如何に美人でも若しその齒が汚なかつたなら興が醒めてしまいます。

斯様に齒は吾々の肉體精神及び容貌の美醜に亘つて大なる關係を有つてゐる謂はゞ人間の生命の基礎でありますから齒をよはひと訓んで壽命の事を意味するのも所以のある事であります。

前に述べた通り歯は人間の非常に大切な部分であります。が此歯が社會の進歩するに従ひ益々弱くなつて疾患に罹り易くなるのは著しい事實であります。これは如何いふ原因に基くかと云ふに一體世の中が進めば進む程人間の體力を使はずに機械の力を借りて用を辨する結果身體が段々萎縮して抵抗力が弱くなつて行く事實があります。が齒も同じ様な理由により次第々々に退化して昔に比べると餘程脆弱のものとなり殊に食物の調理法の進歩は齒の疾患の原因となる砂糖等を益々多く用ゆるやうになり又成るべく硬い食物を避けて軟かなものを攝取して齒の修練

を怠る結果文明になればなる程自然に齒は悪るくなつて行くのであります。

彼様に齒は自然に悪くなつて行くばかりでなく元來口中は最も病氣になり易い幾多の誘因を有してゐるのであります。その第一は口中は恰度微菌培養場の觀がある位微菌の棲息繁殖に極めて都合よく出來てゐる事でそれは雨がジメ／＼降つて生暖い梅雨の時候に種々の物に微菌が生えると同じ理由で適度の温熱と濕氣とがあつて其上營養分が澤山あり日光の侵入せぬ口中は微菌のためには實に眺向きの住居であります。先年亡くなられました獨乙の細菌學の泰斗ミルレル博士の言に據れば不潔なる口中には

一日一千億萬の細菌が繁殖すると證明されました、勿論それが皆人體に害を與へる譯ではありませんが其中には窒布斯菌も結核菌も肺炎菌も又其他種々の毒菌があるには違ひありません、だから一晝夜掃除しなかつた口中から取つた唾液をモルモット(兎の一種)に注射すると七日目に死ぬ、ぬ、そうでありませぬ。

第二には吾々の食物殊に日本人の常食は最も齲齒の基となり易いのであります、それは吾々の常食の大部分は含水炭素物と言つて一番乳酸を生じ易いから、此乳酸といふものこそ齒の大敵で齲齒の原因は實に之がために起るのてあります。

第三には唾液中の石灰分が沈着して出来る齒石の害、及、齒齲延いては口中に非常の害毒を與へ、或は多量の細菌を繁殖させ、又は口中より悪臭を發し、或は齒の周圍の病氣を起す基となります、彼様にいろくの病因を有つて居りますが、就中齲齒は最大なるもので、且最も危険の伴ふものであります。

三

一 体人間の歯は一生涯の間に二度發生するもので生後七八
 ケ月より生え初めまして六七才になると永久歯成齒とも
 云ふと代り初めます此交代前の歯は上下二十枚あつて乳
 齒と稱へそれが全部亡くなつてから上下十六枚宛の永久
 齒が生え揃ふには二十二三才位まで人により長短があ
 ります。それで齒の強弱齒列の完否咬合の正否は實に此
 乳齒と永久齒との交代が完全に行はれるか否やによつて
 決まるのでそれは乳齒が完全であれば生え變る永久齒も
 完全なのであります。だから乳齒の保全といふ事は齒牙衛
 生上最も大切な事柄であるにも拘らず世間の人は大体乳

呑齒は生え變るからと因襲的に固信して之を閑却して願
 みぬのは實に嘆かましい次第であります。
 それがため後來不可測の禍を招ぐ基となるのでございま
 す。つまり乳齒が不完全ですと例へば齲齒に罹つたりする
 と其部分に疼痛を覺えますから子供は成るべく其齒を咬
 合せぬやうにします。従つて凡て食物が齲呑にされて胃腸
 に障害を來すばかりでなく單に齲蝕された一本の齒のみ
 ならず片側の五六本の齒は咬合運動が足らぬ結果乳齒の
 根元で化灰作用といふ微妙な作用で段々に出來上る永久
 齒の發育が充分に參りません。又そういう齒は永久齒と自
 然に尋常に抜け變るべき機能を失つて齒の根が何時迄も

残つてゐるためよし永久齒が生えてもそれに障げられて
 反齒又は亂杭齒になり勝ちで咀嚼咬合が完全に行はれま
 せぬ、それに伴つて胃腸延ては身体の健康に關係し又顔面
 美の中心をなす顎骨に影響を及ぼして顔の相好まで全く
 變つてしまひます。

四

さて齒の表面に出てゐる眞珠色をした部分を瑛瑯質と言
 ひまして人間の身體中で一番硬い組織で齒の上を包んで
 内を保護してゐる言はゞ鎧のやうなもので其中に象牙質
 といふ齒の主なる部分がありましたそれが血管や神經を
 有する齒髓といふ齒の生命の本源を包んでゐるのであり
 ます、斯様に齒は外界から種々の刺戟や冷い熱いに耐え
 得るやうに出来て居つて各々その職能に従つて種々の形
 に造られてゐます先づ前齒四枚を切齒と言ひ食物を噛み
 切るため次にあるのを犬齒と言ひこれは食物を引裂くの
 であります次はいづれも臼のやうな格好をした小臼齒大

白歯で食物を粉碎して能い程合に唾液と配合させて出来上つた軟かな粘性の食物が嚥下されるのであります、此の丈夫な各自特別の職能を有つてゐる歯が上下三十二枚完全に働をなしてこそ健全なる體軀を作り得て齒が人間生命の基礎たる本分に叶ふ次第であります。然るに此齒が悉皆完全してゐる者は極めて尠なく大體種々の齒患に罹つてゐるので、就中齲齒に至つては老幼男女の差別なく十人が十人百人が百人殆んどこれに惱まされないものはありません、けれども世間多くの人はナニ齲齒位と平氣に考へ非常に痛み出せば齒科醫の治療さへ受けなければいと高を括つてゐますが齲齒は左程心配のない

病氣かと言ふに決してそんな譯ではありません前にも述べた通り非常に危険な恐るべき病氣であります何故かと云ふに人間の口中にはいつも種々の病原菌が棲息して殊に齲齒の空洞の中で非常に多く繁殖して何か身體に異狀があつた場合例へば感冒を引いたとか喰過たとかいふやうな時に体内に侵入して全身病殊に肺炎肺結核室布斯等の原因をなすのみならずいつ何時齲蝕された場所から病菌が侵入して恐るべき病氣に感染するか解らぬ上齲齒が段々腐れて行くと齒膜炎を起し進んで骨膜に炎症を起し顎骨へ膿をもつて所謂腐骨となりそれから膿毒症や敗血症を起して死ぬといふ事は随分稀ではありません時

に依ると病毒が淋巴管や血管を傳ふて眼球の後部に膿瘍を形成して全く盲目に陥る事があります、かくの如く危険な致命病であるにも拘らず大概の人は齲齒は自然に出来る止むを得ぬもので出来ぬのが不思議位に考へてゐるのは實に痛嘆すべき事でございます。

五

一體此の齲齒は如何して出来るかと言ふに近年その眞の原因が発見せらるゝまでは一般に或は口熱とか又は細菌とか若くは遺傳の結果だなどと信ぜられて居りました、然るに前に述べたミルレル博士がいろくと研究の末齲齒は口中に出来る乳酸に原因するものであるといふ事を発見されました、それは吾々が食事をした後齒の間隙へ残る食滓が口中の温度と濕氣のために醗酵して乳酸といふものを生じそれが珐瑯質を溶解し象牙質をべたくにし、て終に齒髓を侵すのであります。

此の乳酸は主に含水炭素性の食物即ち植物性の食物から

發生するものでありますから米や麥を常食とする吾々日本人は餘程注意せねばなりません、よく言ふ澱粉だとか糖分などといふ種類のものを含育する食物はいづれも乳酸を發生する基であります、従つても菓子だとかミルクなど甘い物を好む子供衆は一倍氣を付けねばなりません、それに子供は大人に比べると平常口中が不潔な上歯の組織がどうしても薄弱ですから直き齶齒に罹る虞があります前にも述べた通り子供の齒の完否によりては後來實に恐るべき禍を生ずるのでありますから家庭に於ける長上者が斷へず細心の注意を拂はねばなりません、これは確に育兒上の責任の大なるものゝ一つであります。

彼の佛蘭西の大ナポレオンが愛兒に菓子と菓子を與へるのにビスケットを一個宛紙に包んでやつたといふ事は有名な逸話であると共に大に吾々の學ぶべき美談であります。又御婦人方は一般に甘いもの殊に甘藷などをお好みですが之れ位乳酸の發生し易いものはありません、其上御婦人に限つて妙齡になると多く齒の表面へ黒色の斑が出来ます、すが之れが又珫瑯質に害を與へて齶齒の原因をなす事が尠くありません、それに御婦人は月經前後に生理上の關係からよく齒が悪くなり又妊娠中は身體に種々なる異狀を來す結果絶へず口中が酸性に變じ惡臭を來し且何となく全身が怠るゝ無性になつて口中の掃除も兎角怠り勝ちと

なり延て乳酸を生じ珫瑯質を害する上に胎児の發育に伴れ造骨のため母體の齒の中に含まるゝ炭酸カルシウムと燐酸カルシウムといふものを攝取されるので齒が非常に薄弱となり概ね齲齒に罹りますから此期間は殊更御用心が肝要でございます。

彼様に種々の原因から齲齒になるのでありますが齲齒も一度齒髓が犯されてジク／＼痛み出してからではもうどうする事も出来ません西洋の諺に「豫防は治療に勝る」といふ事がございますが今日醫學の本分とする處も實に此處にあるので病氣を癒すよりは寧ろ如何にして防ぐかといふにあるのでございます殊に齒の質ばかりは一度消失す

ると再び新生しませぬから齲齒が痛んで齒科醫に駆付けるときは既に遅く最早人工的の補足をするより外仕方がありません、そうならぬ以前に早く豫防すれば出来るものなので且つ豫防すべきものであります。

六

然らば如何すれば齲齒を豫防する事が出来るかといふに別に六ヶ敷い事でも何でもありません極めて簡単なのであります。

即ち

常に品質の優れた歯磨を用ひて

能く歯牙口腔を清潔にする事

唯之れ丈の事です大抵の人は朝起きて顔を洗ふ時に歯の掃除もされますがホンのお義理一遍のやうにするのが多く真に歯牙の衛生といふ事を考へて掃除するものは極めて稀であります従つて數年前までは歯磨の品質の良否な

ぞといふ事には一向頓着なく唯寐起の口中の不快を除くため前後の見境なく用ひられたのであります然し歯科衛生思想がだん／＼に普及された結果今日では左程でもありませんがそれでも世間一般の人々は一寸香氣が佳かつたり口あたりが佳かつたりすると譯もなく良歯磨のやうに思ひますがそれは大變な間違であります如何に香氣が佳く口あたりが佳くつても大切な珫瑯質を磨滅したり微妙な味覺作用を害するやうでは何にもなりませんのみか反つて歯牙の大敵となるのでありますから歯磨の品質に就ては餘程深い注意を拂はねばなりません。又世間には往々歯の色が眞白くなり又は水色になるからと云ふので何

も知らずに極く粗悪な歯磨を良い歯磨だと思つて使用される方がありますがそれは誤解も甚しい事で自ら手を下して歯を破壊するものであります。成程さういふ歯磨を使ふと一寸歯が白くなるやうに見えますが實は粉状が粗いので歯に最も大切な表面の珐瑯質を磨り耗らして内部の珐瑯質又は象牙質を露出するので謂はゞ小刀か何かで歯を削ると全様頗る危険な事であり、よし一寸白くなるにもせよ單に一時的なものですから直ぐ變色するそれを除らうと益その歯磨を使用して終には珐瑯質全體を磨り耗らして全く象牙質を現はし熱湯にも冷水にも泌みて痛むやうになります、もうさうなつては取返が付きません、

直ぐベタベタになつて壞れて仕舞ます、斯様に歯磨の品質如何によりては恐るべき患を醸すのでありますから其選擇に就ては能く々々氣を付けねばなりません。

然し猶こゝに御注意を促したいのは品質が良いからと云つて唯無暗と歯刷牙子に歯磨を付けて歯の表面を擦ればいかといふに決してさうではありません、歯刷牙子も餘り毛の弱くない強くない適度のものを選んで前歯は上下に奥歯は上下左右に表裏共丁寧に磨かねばなりません。

又歯磨は何時使ふのがよいかと云ふに毎食後に用ゆれば一番宜しいのですがそれが出来ぬとしてもせめて食後に稀薄な水歯磨溶液で口中を含嗽する事はせねばなりません。

ん、そして一日に二度即ち朝起床の時と夜就眠の前には必ず磨かねばなりません、この夜就眠前に歯を磨き口中を浄めるといふ事は未だ知らぬ人が多いやうであります、が苟くも常識あるものは何事を措いても是非共勵行せねばならぬ事であり、ます何故かといふに朝から晩までいるくなものを食べ、て其儘口中を掃除もせず、に就眠すると云ふ事は危険此上もないこと、で歯の間隙や缺陷に残留する食物の滓片は多くは唾液中に腐敗して齲歯の原因となるは勿論、其他いろくの恐ろしい病氣を起す基となるから、であります、誰でも起きてゐる間は何か食べた、り喋言つたりして、断へず口を動かして居りますから、始終唾液が分泌し

て歯の間を洗ふ故、比較的危険の伴ふことが尠いものです、が一度就眠して口の活動がやみ、唾液の分泌が止まると口中の汚物は室の麴が時を得たやうに、簇々腐敗醱して、或は乳酸を作り、或は細菌を繁殖させるのであります、から少しも油断がなりません、現に前にも一寸述べた通り、朝と晩二度歯を磨く人の口中から取つた唾液をモルモットに注射しても、別に異状を認めませぬが、朝一度だけ、申譯的に磨く人の唾液を注射すると七日目には其モルモットが全く斃死してしまふ、實驗に徴しても如何に口中の細菌が吾々の唾液中に夥しく繁殖して毒威を逞ふするかといふ事が解ります、だから夜就眠前に歯を磨き口中を浄めるといふ

事は必ず實行せねばならぬ大事であります況して夜齒を磨いて床に就く時は氣持が清々して如何にも寐心地がいゝ上に實際口中の細菌に對して所謂枕を高くして眠る事の出來るのは勿論朝起きた時口中が粘着いたり惡臭を發して不快を感じずる事がないのでありますから之れは是非共今日から實行するやう特にお勧め致します。

七

次に尙一層注意すべきは子供の齒の攝生であります子供
の乳齒の保全如何によりて永久齒に變化を興へ其影響は
身體顔容にまで及ぶことは前に述べましたが實際親御達
が僅かの注意を怠つた許りで其子供の一生に取返し
かぬ不幸を享ける悲となるのでありますから深く氣を付
けねばなりません言ふ迄もなく子供の齒は大人に比べて
極めて薄弱なる上平常の喰物がミルクとか菓子とか如何
にも乳酸製造に洩向にできてゐる所へ口中を掃除する事
が滅多にありませんから直き齶蝕され易いのであります
然らば如何にして子供の齒の攝生をするかといふに先づ

極く幼さな乳呑兒ならば極めて稀薄な硼酸水を綿かガ
 ぜに滲ませて時々口中を拭き少し成長しては菓子など喰
 べるやうになつては品質のいゝ柔かな煉齒磨を水に溶い
 て極く毛の柔かな楊枝で軽く齒を掃除してやり尙長じて
 自分で顔を洗ふ年頃になつたならば必ず齒磨と子供用の
 齒刷子とを與へ自身齒を磨く習慣を付けさせるやうにす
 れば決して齲齒などに惱まされる虞はありません其齒磨
 は粉製でも煉製でも差支ありません唯子供は取扱上粉
 製は齒刷子から散ると云ふ憂もありませんから出來得る限
 り煉製を使ふ方がよろしうございます若し押出管入の柔
 かな煉齒磨ならば申分ありません。

八

さて齲齒の害毒の怖るべき事それを未發に豫防するには
 朝夕品質の優れた齒磨を用ひて能く齒牙口腔を清潔にす
 るより外ない事は前に述べましたが然らば如何なる齒磨
 を用ふればよろしいかと云ふに粉製にせよ煉製にせよ次
 の性質を完全に具備してゐるものが最も理想的でありま
 す。

- 一、口腔軟組織に對して腐蝕性ならず
- 二、齒牙硬組織に對して脱灰性ならず
- 三、輕微なる擦去性 (器械的清淨力)
- 四、制酸性

- 五、十分なる防腐性
- 六、營養亢奮性
- 七、佳快なる臭味色
- 八、收斂性

以上は近世化學細菌學藥物學齒科醫學の諸方面から見たる歯牙劑の有すべき必要條件であります。素人が一々之を試験して使ふといふ事も出来ずまいから先づ信用ある商店の製品を用ふるが肝要であります。現今世上に種々の齒磨があります。自分の實驗によればライオンなどは最も完全なものだらうと思ひます。

(完)

本著に於て最も完全なりと推賞されたるライオン齒磨は如何にして製造されるか？

ライオン齒磨は發賣以來既に拾數ヶ年を経過し其間或
 は店主自ら歐米に渡航して各先進國の齒磨製造所を歴訪
 して實地に其製造方法を研究し又齒科醫學の殊に進歩せ
 る米國及び獨乙に於ては有名なる齒科醫の大家に親しく
 接見して其意見を聴き或は優良なる原料の特約をなし又
 内地に於ては諸大家に乞ふて其説を叩き専門の技師を聘
 して原料に一切厳密な試験を施し香料藥品の調合製品の
 包裝等に就ても又それ／＼特殊の注意を拂ふ等苦心經營
 齒牙衛生の根本理に適合する良品の製造に盡瘁したる結
 果其品質が如何なる齒磨にも勝つてゐる事が一般に認め
 られ日本全國は勿論普く海外諸國の信用を得て支那印度

は申すまでもなく遠く米國各地方並びに歐洲各國へ輸出
さるゝの盛況を呈するに至つたのであります斯様にライ
オン齒磨の品質が勝れてゐる事は遂に上聞に達し畏くも
やんごとなき高貴の御料として宮内省並に東宮職より屢
々御買上の御恩命を辱ふし最近に於ては、

皇后陛下

東宮殿下

御買上の光榮を荷ひ此上もない面目を施し
ました、又内地開催の各博覽會共進會に出品して其都度
最高の賞牌を受け外國の博覽會に於ても其優秀なるを認
められて左記の各博覽會より金銀牌を受領しました。

一九〇四年 セントルイ萬國大博覽會

一九〇九年 シヤトル太平洋大博覽會

一九一〇年 ロンドン日英大博覽會

彼様にライオン齒磨は世界的名聲と信用とを博して居り
まして單に「ライオン」と呼ば誰も彼も一齊に「良齒磨」と應
へる位三歳の童子でも其名を知らぬものはありませんそ
してヒマラヤ山の麓だのアルプスの山の中だの或はアマ
ゾン河の上流だの又はアフリカの内地だの殆んど吾々の
思ひも寄らぬ地方から直接に種々の事を問合せて來るの
であります。

斯くの如くライオン齒磨が至る處に持囃されて居ります
のは全く愛用諸君の御最負による次第で發賣元の感謝に

堪えぬ處でありますが一而其品質が他品を凌駕してゐる事實を語つて居るのだと信じて居ります事實朝晩怠らずライオン歯磨をお使ひになれば歯の色を白く美しくし歯齦を收斂し乳酸の發生を防ぎ使用後長時間に亘りて防腐殺菌の効力を保ち歯はいつも強健で齶蝕される虞なく口中は清潔でさつぱりした氣持が永く續きます。

さてライオン歯磨には粉製煉製水製の三種類ありますが各特長があつて容器もそれ／＼用途に應じて種々ございます。

粉製は御承知の通り何處の御家庭でも見受けるのでございますが其容器も主なるものが左の通り五種あります。

一 小袋入

定價 參錢

袋の裏面に慈善券が刷込んであります使用後此空袋を取纏めて慈善團體へ御寄附願ふと發賣元ではそれを一枚一厘の割て買戻すのであります發賣當初から四十三年迄の十ヶ年間に其金額は實に十三萬四千六百三十六圓十二錢六厘に達しましたつまりそれ丈の金額を愛用諸君と共に慈善事業に寄附したのであります。

二重貼の袋で中味が多く地味でお徳用向きであります。

二 大袋入

定價 拾錢

三特大袋入

定價拾五錢

四桐箱入

定價五錢

五大罐入

定價廿五錢

體裁美しく量目非常に多く多人數の御
 使用に適し家庭向き徳用品であります
 美麗なる桐箱入て小袋入に次て何處に
 もある廣く賣行のある品であります
 體裁美き罐入中味多量にして香氣散逸
 する事なく最も家庭向て且つ氣の利い
 た贈答品として非常に評判のいゝ品で
 あります

煉製は粉製と異なる一種獨特の爽快なる香味を有し常に同
 一の軟度と濕潤性を保ち能く口中に溶解して隈なく行互
 りますから殺菌制酸の效果多く殊に使つた後の氣持は實

に清淨さつぱりして恰度浴後の快感とひとしく食物が美
 味しく喰べられます、それで粉製のやうに飛散るといふ事
 がございませぬから取扱に頗る便利でお子供衆にも雜作
 なく使ふ事が出来又少量で粉製の多量に當りますから旅
 行携帶用としては之に限るのでございます煉製も其用途
 に應じて各特長を備へた容器がいろ／＼あります、がそ
 の主なるものは左の二通りでございます、

一押出管入

定價廿錢

體裁頗る高尚優美御使用の都度要る丈
 の分量を新しく容器から押出す便利此
 上もない品で旅行用小兒用として申分
 のない齒磨として非常の好評を博して

居ります。

ニツケル罐入

定價廿五錢

名稱の通り總ニツケルの美麗な罐入で旅行用として又家庭用として

盛んに賣行のある品であります。

水製は一名齒香水と言ひ粉製煉製と異り液體でありますから口中至る處によく行亘つて殺菌制酸防腐の效果大なるは勿論口中を清淨にして呼吸を香ばしくし數滴にして其用が足りる頗る便利な品で硝子瓶入定價金五拾錢であります。

以上の通りライオン齒磨には粉製煉製水製の三種類あります。朝起床の時は粉製を使ひ毎食後に水製で含嗽をな

し夜就眠する時煉製を用ひて齒を磨けば全く理想的で齒の養生としては申分のない方法でございます。又粉製若くは煉製で齒を磨いた後で水製を用ひて含嗽するといふ事も非常によろしうございます。

許 不 製 複

明治四十五年五月五日印刷
明治四十五年五月八日發行

編輯兼
發行人

東京市牛込區喜久井町三十九番地
石 井 衛 太

發行所

東京市神田區柳原川岸廿二號地
齒科衛生普及會

印刷人

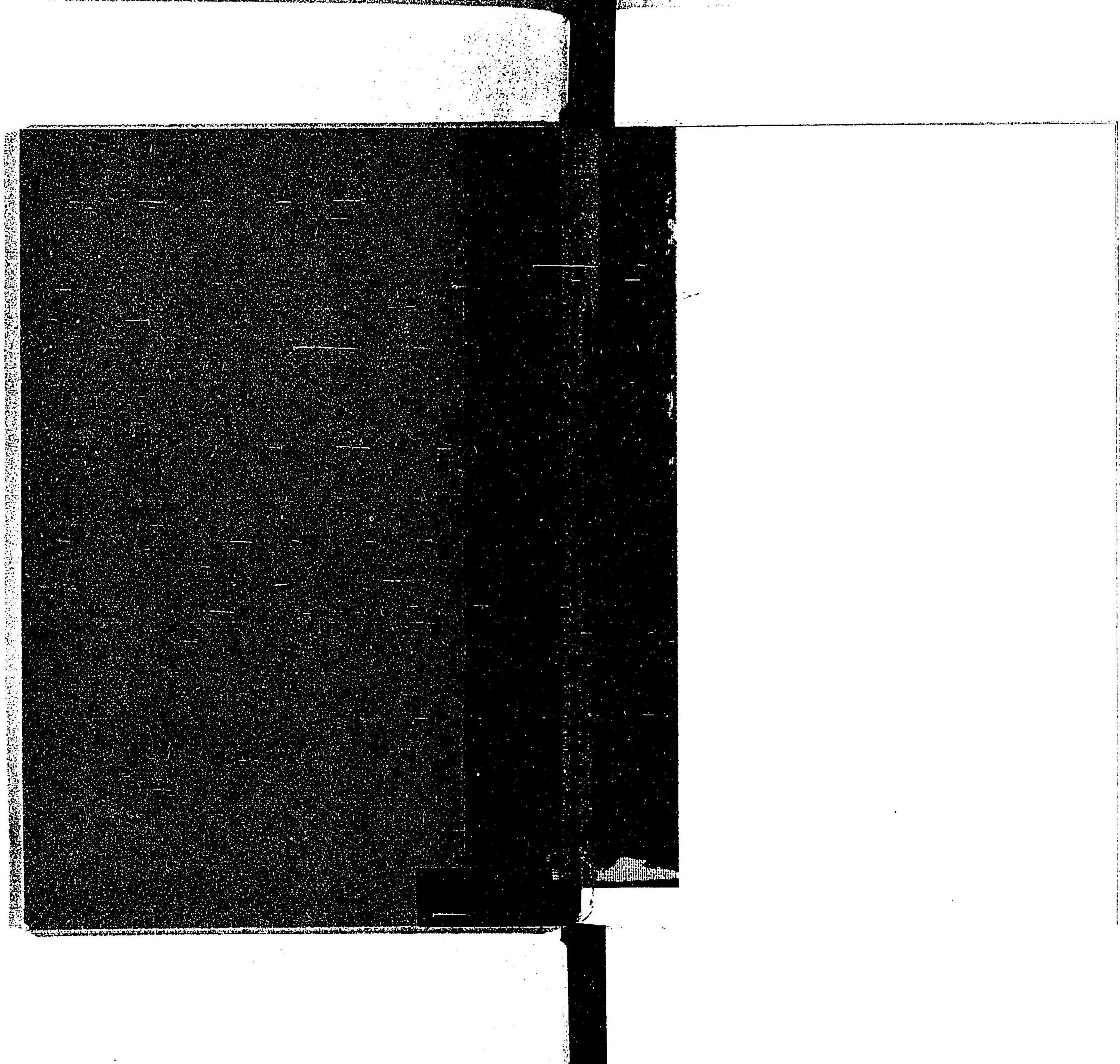
東京市京橋區西紺屋町二十七番地
佐 久 間 衛 治

印刷所

株式會社 秀 英 舍

定價壹部 金貳拾錢

S-1





通俗
歯
の
養
生
法

歯科衛生普及会

060242-000-2

特53-556

通俗歯の養生法

歯科衛生普及会

M45

CBL-0100



特
55

